

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号23 初期に築く本人との信頼関係
- 項目番号24 初期に築く家族との信頼関係
- 項目番号25 初期対応の見極めと支援
- 項目番号26 馴染みながらのサービス利用
- 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援
- 項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
- 項目番号60 お金の所持や使うことの支援
- 項目番号61 日常的な外出支援
- 項目番号62 普段行けない場所への外出支援
- 項目番号63 電話や手紙の支援
- 項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホームかしま
(ユニット名)	
記入者(管理者) 氏名	沖津 由美子
評価完了日	平成20年3月27日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>社会福祉法人養生会としての基本理念を職員全員が理解し、さらにグループホームとしての目的を確認しながら、利用者自身の地域住民の一人としての自覚と地域の方たちへの理解を頂きながら、絆を深め、健康的な暮らしを支援するための理念を作り上げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ミーティングや業務研修時、また地域合同の行事や日々の関わりの中で社会福祉法人の地域における役割を全員で確かめ合い、さらに、地域密着型サービスであるグループホームの使命を話し合っている。そしてまた、利用者が地域に暮らす人として、地域住民との関係を大切にしていけるよう支援を行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には、ホームだより・招待状・電話などで、地域の行事紹介や一緒に楽しむ機会を設定し、利用者が生き生きと暮らしを継続するための理解と協力を得ている。また、地域の方たちには、ふれあいの機会や地域のボランティアの方を通じて、気軽に声をかけて頂き、一緒に行事に参加した遊びに来て頂いたりしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物など外出の際には、近隣地区の方々と挨拶や話などを通じて親睦を深め継続していくためのおつきあいを大事にし、実行している。また、近隣地区のボランティアの方やその方達を通じてのおつきあいを広め何時でも気軽に立ち寄って頂いたりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>お花見、鎮守様の春祭り(子供みこし)、夏祭り、保育所の運動会、小学校のジュニア福祉スクール、地域住民と子供達との餅つき大会などへ積極的に参加し、地域との交流を自然体で行っている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>母体(社会福祉法人)の、社会・地域における福祉の発展・充実という使命感を常に念頭に置き、管理者は地域で開催されるネットワークの会や地域リハビリ広域支援センターなど様々な会合に出来るだけ関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。突然の相談者への対応、また、実習の受け入れもおこなっている。</p>		
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。外部評価の結果は、ミーティングでの報告・話し合いを元に改善計画を立て、出来るだけ早く改善に向けての具体策を練り、実践に繋げている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度開催の運営推進会議では、事業所からの現況報告を中心に検討事項、懸案事項についての意見や情報の収集、また、評価結果をふまえた取り組みによる成果なども報告し、意見を頂くようにしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、毎回、会議の開催案内や議事録を直接役所の窓口へ持参し面回の機会を多く持ち、情報の収集や知識の習得に努め、また、相談にも乗って頂くなど積極的に交流を図っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、必要な時にはいつでも対応できるように知識を持ちまた学習の機会も得ているが、他の職員は啓蒙や学習の機会がもっと必要と感じている。</p>		<p>管理者は、業務研修(月1回)の年間計画やミーティングに学習の機会を設け、啓蒙していきたい。また、法人の社会福祉士(リーガルサポート会員)へ依頼し研修として実施するなど今後の課題としたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>業務研修やミーティングの際に、高齢者虐待防止法を全職員が理解しまた浸透、遵守がなされるように話し合い実行している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、ケアに関する考え方、実際の取り組みなどを出来る限り丁寧に説明している。利用者の状態変化によるやむをえない契約解除などに至る場合も、本人、家族と相談し納得の上行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員を月に1度派遣して頂くことで、利用者の相談に乗って頂いたり、利用者の立場での意見を頂き、運営の参考にしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度の会報で、日々の生活での出来事や行事参加等の報告、担当スタッフよりの個別の「気づき」、職員に関する事項などを綴り郵送している。また、体調の変化、相談事項などは、電話にて速やかに行い、来訪時には、必ず声をかけ、積極的に関わりを持ち安心して頂けるようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には、来訪時や年6回程度の集まりの機会に(食事会など)、どんな些細な事でも話して頂ける雰囲気や場を提供するよう常に心がけ、またご家族同士の関わり合いも大切にしており、そのことを日々の生活、ケアに反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング(毎日)、業務研修(月1回)、自己評価をふまえた個別面談(年3回)などで、積極的な意見を尊重し、コミュニケーションを密にすることで垣根をなくし、全員参加で運営を円滑にするべく努力している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が24時間、365日、不自由を感じることもなくなじみの暮らしを継続していけるよう、日中、夜間、共に無理なく、状態に沿ったローテーションで対応している。また、その都度、必要に応じた人数を確保することで職員の配置も柔軟な体制を取っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族が馴染みの間柄でスタッフに信頼を寄せることが出来るような対応を一番に心がけており、やむを得ない異動、離職などには時期、引き継ぎなどに最大限の配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>業務研修の年間計画をたて、その中には法人全体で外部講師から学ぶ機会を設け、自己研鑽の機会を得ている。また、事業所外で開催される研修には多くの職員が受講できるようにし、研修報告書はミーティング時に報告してもらい、報告書は全職員で閲覧し確認し合っている。</p>		
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福島県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に所属し、特にいわき地区研修会のスタッフ研修は、事例検討などの学習の機会や、知識の習得などに役立てており、また、他事業所の職員との交流で取り組みの確認をするなど、サービスの質の向上を目指している。</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員相互の親睦と共に支え合うという意識の高さを常に啓蒙している。日常的にまたは面談時など気軽に話せる雰囲気や場を設け、職員の間関係も把握しながら尾を引かずにストレスを回避できるように努めている。法人には産業医もおり心身面でいつでも相談できる体制がある。</p>		
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年間行事を通して、運営者も現場を訪れ利用者や職員と過ごしたり機会ある毎に声をかけるなどホームの状況を把握している。また職員が、向上心を持って働けるよう職能評価を実施し、業務に反映させている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は一緒に生活を共にし自然体で支え合うという関係に気を配りながら接している。年下の世代が年長者に出来ること、そして年長者である利用者が職員に伝授出来ることなどを様々な場面や過去のエピソードを通して設定しながら、生き甲斐を持って和やかに生活出来るように心がけている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、家族との日常的な面会や行事参加の機会には、利用者と共に過ごす時間を共有しながら、家族の思いや職員の日々の暮らしの中での気づきなど情報の交換を行っている。そして、本人と一緒に支えているという協力関係を確かめ合いながら、自然体で支援している。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めながら、日頃の本人の状況や状態をこまめに報告・相談をすることにより、よりよい関係の継続または修復に向けて支援している。また、行事には必ず、参加の依頼をし足を向けやすい状況を設定し働きかけている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人のこれまでの人間関係や社会性の継続のためにも、子、親戚、知人、友人などの関係を大切に継続できるように、いつでも来訪したり出かけて行きやすい雰囲気作りに努めている。また、本人の願いや思いをかなえるべく、夫のお墓参りに付き添ったり、行きつけの美容院の利用の継続などの支援を行っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>年齢差、生きてきた環境の違いなどを根気強く調整しながら、時には世話役の人に年長者としての説得力を発揮してもらうなど力関係や個性を生かし対処している。利用者同士が共に支え合い、ある場面では助け合う心を育み、お互いの良さを認め合う温かい雰囲気作りを行っている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービスの利用を終了された方にも、気軽に来訪して頂いたり、家族からの相談に乗るなど側面から継続的に支えており、利用中に培った関係性を大切にすることを心がけ、実行している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしにおける関わりの中で、少しの言葉や表情を見過ごさずにキャッチし、本人の希望や、真意を確認し把握するようにしている。また、なかなかみ取れない方には、ご家族を中心に関係者からの情報を参考にし本人本意の暮らしが実現できるように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>プライバシーへの配慮を念頭に、ホームへの面会の際の家族への聞き取りや、利用者と家族との会話の中からヒントを探り、現在の生活に生かせるように努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>その人の長年の生活習慣や、歴史を参考にしながら、一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、現在の心身の状態や可能な力を認めながら全体像を捉えている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人ご家族への日頃の関わりの中で、思いや意見を伺い、反映させるようにしている。また、アセスメントやモニタリングを中心に、職員全体で意見やアイデアを出し合いながらケアカンファレンスを行い介護計画に活かしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の遂行状況、効果の評価とともに、職員が記録する日々の状況を参考にし、状態変化や本人・家族の要望も組み入れながら、現状に応じた見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々のファイルに食事、水分、排泄などの身体状況、利用者同士、家族、職員、関係者とのエピソード、本人の発した言葉などを記録している。毎日の記録にケアプランを登載し、心身の状態を把握しながら全職員が計画に沿ったケアを行い、また「気づき」が生まれるように毎日必ず確認し、実践・見直しに活かしている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>個々の状態に相違はあっても、利用者の方全員が安心して地域と関わり、暮らしを継続していくことが出来るよう協力体制を密にし実行している。具体的には地域の方によるボランティアの継続的受け入れや、母体の社会福祉法人との合同による地域の方たちとの行事参加、近隣の小学校、保育所との交流などを行っている。</p>	
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域で展開している、居宅介護支援事業所のケアマネジャーや福祉施設のケアマネジャー、デイサービス事業者など、本人をよく知る人たちとの関わりや話し合いを密にすることで、音楽療法士による音楽療法参加やその都度の施設慰問への招待などは楽しみの一つであり、散歩を兼ねた気分転換の場となっている。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、馴染みの関係が出来つつあります。周辺の情報や支援に関する情報交換、協力関係を今後も築いて行きたい。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医のほかに利用前からのかかりつけ医での医療も受診出来るよう、ご本人・ご家族の希望や必要に応じ協力を得ながら通院介助を行うなど、複数の医療機関との関係を密にしている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医は永年地域での医療に携わり認知症の医療にも精通しており、日常の利用者の姿を通してあるいは家族・職員の話をよく聞き、適切な指示、助言をしてきており、信頼関係を築きながら支援している。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院による弊害を出来るだけ防ぐため、家族と協働しながら医師・看護師・MSWとの話し合いや情報の提供をするなど入院時に行い、また毎日職員が見舞う事で、本人の状態観察・確認を徹底している。そして短期的にかつスムーズに回復・退院に向けての連携支援を行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については、本人の状態についてご家族・かかりつけ医・看護師・管理者が状態の変化がある度に話し合いを持ち、対応指針を軸に家族・本人の思いを優先しながら支援に繋げている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の気持ちを大切にしながらかかりつけ医・家族・管理者との話し合いを重ね、利用者が安心して終末期を過ごせるよう取り組んでいる。緊急時の対応は医療機関と密に連携を図り円滑に対応している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所に移られた際には、アセスメント・ケアプラン・支援状況を手渡し情報の交換を行い、その後も職員が訪問するなど環境の変化に対するダメージを最小限にするため、ホームとしての出来る限りの支援を行っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>毎日のミーティングや業務研修の折に職員のあるべき姿・対応を周知徹底し確認することを怠らず、人生の先達としての利用者一人ひとりの誇り・プライバシーを大切にされた対応を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の関わりにおいて、利用者本人が希望や考えを自由に述べたり、物事を選択し決定したり、表情から汲み取ったり出来る場を数多く設定し、自然体で受け入れることで納得のいく暮らしが実現できるように支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本である1日の流れを目安に、そのことに固執することなく一人ひとりの心身の状態を優先し、その日・その時の本人の気持ちを大切に、希望の実現が可能になるように支援を行っている。</p>		
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>職員は個々の生活習慣や好みを共通に認識しながら、身繕いなど本人の意向が十分に発揮できるようにお膳立てした上で不十分なところはさりげなく直したりして自己決定を尊重している。行事や外出の際はお化粧品やおしゃれを勧め、行きつけの美容院がある利用者には送迎支援を行い生活においての継続性を大事にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>普段から季節の食材の紹介・思い出など「食」にまつわる会話を引き出す事で、好みや献立のヒントを探り、職員利用者が一体となって食事のあり方を工夫している。また畑でとれた食材や卵などの素材を、一緒に下ごしらえしたり調理した物を揃って頂く事で、皆が満足感を得ながら片付けに至るまでの活動を自然体で行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつに関して、散歩を兼ねた買い物の際に購入した物や、個人的な差し入れに関しては、制限のある人や危険な人などへの配慮も必要なため、納得して頂きながら場合によっては預かるようにし、小分けにした物を自室での見守りの中で楽しんで頂くなど、本人の希望や周りへの気配りもしながら支援している。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄チェック表を使用、時間や習慣・排泄感覚を把握し、本人の生活リズムの中でさりげなくトイレ声掛け・誘導を実施し失敗時も本人を傷つけないような配慮も十分に行っている。利用前はオムツ使用であっても同様の支援をすることにより心地よい排泄感で過ごせるように支援している。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの、その日その時の希望、タイミングに合わせ確認と配慮をし入浴して頂いている。仲の良い方同士の入浴、熱いお風呂が苦手な人へは声かけの工夫とお湯に触れて確かめて頂き納得してもらう事や足浴での安眠効果などの支援も行っている。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中の活動で生活のリズムを作り安眠に繋げるように努めている。個々の心身の状態、表情や希望、習慣に応じて、またその日の疲労度も配慮しながら個別の休息を取り入れ負担のないよう支援している。夜間安眠出来ない方には温かい飲み物や会話、スキンシップで不安感を取り除く工夫もしている。</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>得意な分野での一人ひとりの力を発揮して頂けるよう、経験や生活習慣の中から場面、例えば食材の下ごしらえ・味見・保存食作り・縫い物・園芸などの機会を日常的に設定し、職員の感謝の気持ちと言葉で対応している。行事、遠出の外出などの楽しみ事も利用者と一緒に相談しながら、希望に添って計画し実施している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	本人の希望と安心感から、家族の了解を得て少額のお金を手元に持っている利用者もいる。外出や買い物の際、手持ちのお金を自ら支払う利用者には、お金を支払った後のレシートや、領収書は大切なものであることを説明し、保管して頂くなど工夫をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節、天候、その日の本人の体調や希望に応じて、心身の活性が図れるように無理のない距離での散歩・買い物・各種行事参加あるいはドライブなど、徒歩の方、車椅子方も同様に外出支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	夫の墓参りを切望する利用者には、家族との協力で車椅子持参で実現させ、また、孫の結婚式に出席したい希望の方には家族と協力して、お化粧やおしゃれをし、職員付き添いで車椅子にての出席を実現するなど、一人ひとりの本人・家族の思いや願いに寄り添いながら外出の支援を可能にしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	遠方の子供や孫に電話をする楽しみを持っている利用者には、自らあるいは馴染みの職員が支援し、懐かしい声を聞いたり近況のやりとりをすることで本人の孤独感や不安感の解消につなげている。その際は自室での子機を使用し、プライバシーに配慮している。また、来訪のお礼に手紙を書いた方など、機会を設定し活性化に役立っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	職員は、ご家族・知人・友人が気軽に訪れることが出来るような雰囲気作りに努めている。訪問時間はAM7:00~PM9:00としているが事情に応じて柔軟に対応可能となっている。面会の際は、本人との時間を十分に持つため、自室や個別の部屋でゆったりして頂き、希望に応じて宿泊も出来る配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りでのケアの振り返りで、職員の共通認識がなされているかを確認し、身体拘束のない暮らしを実践している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの状態や傾向を周知しており、また、その日その時の本人の思いを素早くキャッチし、職員間の連携の元見守りながらまたはさりげなく声をかけ、場合によっては一緒に行動するなど、安全で自由な暮らしを支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じフロアで作業を行っており、また机も全員の動きを把握しやすい位置に配置し、さりげなく観察したり記録などの事務作業ができる配慮をしている。夜間は一人ひとりの様子や所在を常に確認できる位置に待機し、すぐに対応できる体制で安全面に配慮しながら臨んでいる。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの状態を把握し、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、使用する時に注意や見守りが必要なものと区別して管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のために常日頃から一人ひとりのリスクについて話し合い、職員の共通認識を図っている。また、日々のヒヤリハット記録は職員全員が確認し、万が一に事故が発生してしまった場合は速やかに事故報告書を作成、事故原因今後の対応についての話し合いなど、ご家族への説明報告を行い、今後の予防策に繋げている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署やグループホーム協議会の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。また、緊急時対応について、作成してあるマニュアルは職員全員が周知徹底している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の法人全体での消防訓練・その他の災害対策に向けての訓練・そして防災委員会には毎月必ず参加し、同時にそれに基づいてのグループホーム独自の訓練・話し合いを実施し、何時でも利用者がスムーズに避難できるように啓蒙している。また地域のボランティアの方たちにも呼びかけて協力体制を密にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>安全を優先しながら、一人ひとりの持てる力の発揮や願望など、その人にとっての自然な暮らしを支援する事で、いきいきと暮らして頂く事を普段の生活から納得して頂き、その都度説明をしながら理解と協力を得ている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>職員は一人ひとりの普段の状態を把握しており、様子の変化や毎朝のバイタルチェックによる確認・排泄チェック・入浴清拭時のボディチェックなど少しでも普段の状態と変化が現れた場合は見過ごさず、直ちに管理者に報告し医療受診などの早期対応に繋げている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬ファイルを整備し、内容の把握・変更など確認が出来るようにしており、変更時には記録をとり医療機関との連携を図れるようにしている。また、服薬時は一人ひとりに手渡し、毎回全員の服用確認をしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>職員は快便が利用者の心身に何よりも心地よさと落ち着きを与えることを理解し、全員で排便のチェックを怠らず予防と対策の足がかりとしている。適度な運動・繊維質に配慮した食材と献立・牛乳等乳製品の摂取・腹部マッサージなどの実施や、一人ひとりの習慣や原因も考慮し、自然排便が可能になるよう取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、歯磨きの声かけ誘導を行い、見守りや介助の支援も一人ひとりの持てる力に応じて支援している。就寝前の入れ歯の管理や手入れも習慣や意向をふまえて行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取量をチェック表にて行っている。食事を残さない工夫・お茶の奨め方の工夫など嗜好や習慣を考慮しながら、一人ひとりのその日その時の状態の記録と併せて観察し、把握・確認をしている。毎月または必要に応じて体重測定を継続し、健康管理に役立てている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について細かいマニュアルを作成し、母体である法人との連携で定期的に講師(医師)による業務研修を実施し、実行している。また、時期的・地域的な感染症のリスクには常に情報の収集を行い早期発見早期対応に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具特にまな板ふきん包丁の消毒・漂白、冷蔵庫水回り調理台床などの清潔保持、職員・利用者の手洗いの徹底など毎日チェック・記録し衛生管理に努めている。食材は、なるべく自家栽培や地元農家直送の新鮮野菜を使用し、また食材の在庫表を活用しその都度買い物に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路から建物まで距離があり、隣接病院の敷地であり往来の為の砂利敷となっているが、部分的に畑や花壇、鶏小屋などを配置し、デメリットをカバーする工夫がなされている。また、近隣の方の協力で四季折々の観賞用鉢植えの披露なども利用者や訪れる人の目を楽しませてくれ、玄関前ベンチでは、利用者、家族、ボランティアの方たちと楽しい会話やレク活動もさかんである。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の中心位置であるフロアは、利用者が何時でも安心して自由に、自室やプライベートな場所に往来出来、音・光にも配慮がなされている。また、壁面の飾りや観葉植物の配置など利用者と相談しながら行っている。フロアに続く台所は広く余裕があり、職員・利用者協働での作業、年間行事や季節毎の習わしなどには家族やボランティアの方も加わり、食を通して五感で季節や時の移り変わりを感じることでできる工夫もしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーには椅子やリクライニングチェア・マッサージ機付き長いす・自由に使えるお茶道具などを置き、観葉植物の配置などで一人や気の合う仲間とリラックスできる居場所の工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室には個性を尊重した馴染みの物やその人にとっての必需品などが持ち込まれている。写真や、永年愛用している小物の引き続きの使用、出入り口には自分の好みの色や柄で作った暖簾の配置など本人が自室に愛着と自己主張を持ち、居心地よく過ごすことが出来るように工夫をこらしている。	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	空気の入換えや温度調節には全職員が常に注意を払い、利用者の様子観察や室温計も参考にしながら外気との温度差を配慮している。トイレは換気扇・消臭剤の使用とこまめな点検処理で悪臭のない工夫をしている。	
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	台所におけるシンクや調理台の高さは、車椅子や背の低い方の作業も容易な高さに設定されているなど、生活環境のあらゆるところにおいて、利用者の安全と自立を意識した工夫をしている。	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	一人ひとりの行動や力の度合いを職員が把握する事で、混乱や失敗を未然に防いだりまたカバーしたりしながらその方にとって住みやすい環境を提供し、出来るだけ自立した生活を送るための工夫をしている。	
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	玄関スペースに設置したベンチを活用し、天気の良い日は独歩の方も車椅子の方も全員で、思い思いに景色を眺め外の空気を吸い、また外気浴をしたりしながら、歌や話に興じるなど、日常的にレクリエーションに繋げている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いわき市の中心部に位置し商業発展地域でもある鹿島町において、農家・新興住宅・保育所・小学校など自然・社会環境にも恵まれ、地域で25年の歴史を持つ社会福祉法人養生会を母体に平成15年開設されました。

隣接している病院との繋がりも深く医療面での安心感や、併設敷地内の同法人特養との協力体制も密であり、医療介護の充実が図られていることも特色の一つです。

法人理念とグループホームかしまとしての理念を礎に、職員は利用者一人ひとりのこれまでの生活歴を尊重し大切にしながら、「かしま」での生活がその方にとって地域住民とし